

**平成30年度**

**8月定例教育委員会**

**会 議 録**

**(公 開)**

**平成30年8月30日**

## 1 開 会 14時00分

教育長から、「議題第20号」、「その他⑥」については、県議会に提出する議案等に関するものであり、現時点では未公表であること、「その他④」については、公表を予定していない情報を含むものであること、「その他⑤」、「その他⑧」については、公にすることにより率直な意見の交換が損なわれるものであることから、非公開での審議が適当である旨の提案がなされ、出席者全員で異議なく決定した。

## 2 前回の会議録の承認

教育長から、7月17日の7月定例教育委員会の公開部分の会議録の承認について諮られ、出席者全員で異議なく承認した。

## 3 議 事

### ◎ 議題第21号 指導が不適切な教員の認定等の手続に関する規則の改正について

#### 教職員課長

(資料に沿って説明)

説明は以上です。よろしく申し上げます。

#### 教育長

この件に関しまして、質問や意見等はありませんか。

それでは、この件については、案のとおり決定します。

### ◎ 議題第22号 県指定文化財の指定について

#### 文化財課長

(資料に沿って説明)

なお、告示日が指定日となります。説明は以上です。よろしく申し上げます。

#### 宇田津委員

本物を見せていただきました。ありがとうございました。とても貴重な物ということで、私も目にするまでは、これがどういった物なのかというのは正直分からなかったんですけど、作り方とかいろいろ詳しく説明していただいて、非常に勉強になりました。ありがとうございました。これに関しては特にはないんですけど、指定された後の手入れのこと、これは博物館に所蔵されていますけど、皆さんとか一般に公開とか展示をされるのかということとか、後のことをどういうふうに考えていらっしゃるのか。

#### 文化財課長

博物館所蔵の物は今も展示室に展示してありますので、県指定になった旨もお知らせしながら、継続して展示はしていきたいと思っております。高千穂の方の荒立神社所蔵の物については神社の方に所蔵されているものですから、神社の宮司さんともお話しして、何年かに1回とかは高千穂のコミュニティセンターと

かそういった所で展示できないかなということも相談していきたいなと思っています。

#### **宇田津委員**

はい、分かりました。

#### **教育長**

この件に関しまして、他に質問や意見等はありませんか。

それでは、この件については、案のとおり決定します。

### **4 その他**

#### **◎ その他① 平成29年度県立高校卒業生の6月末就職決定状況について**

##### **高校教育課長**

(資料に沿って説明)

就職が決まっていない生徒は10名おりますが、引き続きハローワークや宮崎若者サポートステーションなどと連携を図り、可能な限りの支援を行ってまいりたいと考えております。説明は以上です。

##### **島原委員**

10名の方がまだ決まっていないということなんですけど、ハローワークさんを通じてもそうなんでしょうけど、業界団体とか企業さんに働きかけというのがどのようなものなのか、ミスマッチの原因について、もし分かれば御案内いただきたいんですけど。

##### **高校教育課長**

10名の内訳を申し上げますと、アルバイトが2名、就職活動中が3名、家事手伝いが3名、その他2名となっております。このアルバイト2名の生徒も学校の方が連携を取っておりますが、なかなか正社員になる意志がなかったり、家庭状況が厳しいため、ほとんどアルバイトに専念している状況ということです。就職活動中の3名につきましては、1人は転住によりその後、専門学校に進学したということです。未決定は2名なのですが、そのうち1名に関しては本人が若干コミュニケーションが苦手な生徒であるという理由があったり、もう一人の子は学校がサポステに同行して指導しているのですが、製造業を受験したけど合格せずに、自動車運転免許取得を勧めたりしているのですが、そこ辺がなかなかうまくいかずまだ未決定ということで、学校の方がまだ丁寧に指導しているところであります。家事手伝いの3名に関しても、若干本人が自閉的な傾向があったり、連絡が取れない子もいたり、あるいはその他の子も連絡が取れないというような状況で、連絡が取れる子やそういった若干の支援が必要な子どもたちに関しては、様々な支援をしながら現在、指導しているところであります。以上です。

##### **島原委員**

企業は人手不足で、いろんな手を使って様々な働き手を雇用したいと考えていますので、ミスマッチの原因を丁寧にフォローしながら。今、県の方でもエリアコーディネーターさんがいらっしゃいますけど、その方々にもこういう情報をしっかり伝えた上で、企業さんに結びつけていただければと思います。

### 高校教育課長

はい、分かりました。

### 高木委員

特別支援学校の卒業生の就職状況というのは把握していらっしゃるのでしょうか。

### 特別支援教育課長

平成29年度のデータですと、175名卒業生がいたんですけれども、そのうちの42名が就職となっております。就職率としては卒業式時点で24パーセント。希望者というのは、介護サービスを受ける生徒も多いものですから、希望者はもう少し少ないんですけど、希望者の中の割合でいうと73.6パーセントが就職しているという状況です。

### 高木委員

はい、ありがとうございます。

## ◎ その他② 第42回全国高等学校総合文化祭の結果について

### 高校教育課長

(資料に沿って説明)

日頃から学業との両立を図りながら積極的に文化・芸術活動に励む全国の多くの高校生とともに、交流を深めながら将来につながる貴重な体験を積むことができました。報告は以上です。

### 宇田津委員

文化の方でも素晴らしいなど。どうしても部活動というと運動部の部活だけではなくて文化部というのも注目するというか、県民全体も注目してもらえると。全国の文化祭が2020年ですかね、ありますよね、国民文化祭。文化の力というのもすごく影響力があると思うので、この高校生たちが頑張ってくれているのをやはり県民の皆に知っていただきたいなと思います。

もう一つだけ、このオーディオピクチャー部門というのがどういったものかだけをちょっと教えていただいていた方がいいですか。

### 高校教育課長

私も実際の作品を見る機会はなかったのですが、放送部門の方でビデオメッセージというのが、いわゆる番組みたいな形のものに対して写真と音声でスライドショーのような形で写真を展開しながら音声や音楽を入れた作品として仕上げ

いく部門だと聞いております。

#### **宇田津委員**

じゃあ中身的なものは。例えば宮崎県をPRするものとかそういったものとか、何かありますか。

#### **高校教育課長**

これは郷土や地域の話題ということで、テーマが決まっているということで今回は作られたと聞いております。

#### **宇田津委員**

見る機会があればいいなと思いますけれども。

#### **高校教育課長**

また検討します。

#### **宇田津委員**

ありがとうございます。

### **◎ その他③ 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について**

#### **義務教育課長**

(資料に沿って説明)

なお、この県立中学校の結果概要につきましては、この後、研修センターのホームページへアップする予定としております。説明は以上です。

#### **松山委員**

15ページの県立中学校の結果に関してなんですけど、優秀で素晴らしいと思うのですが、この県立中学校だけ統計をとられて、どういった形で利用されるのか。教育に関して、統計以外に活用される予定がありましたら教えてください。

#### **義務教育課長**

基本的には県立中学校は県教委が所管しておりますので、その状況を県民の方々に広く結果を公開するというのがまず主な目的でございます。それと、各学校3校を学校ごとに分析しておりますけれども、それぞれの学校がどういう状況であるのかといったようなところ、全体の平均がどれぐらいなのかといったようなところも掘んでいただくために、こういった形でこれまで県立中の結果をまとめているところです。

#### **松山委員**

市町村立小中学校の情報交換ですとか、指導をするためにこういったテストの結果が使われるということはあるですか。

## 義務教育課長

基本的には、この成績を見ていただいてもお分かりのとおり、一般の市町村立の子どもたちの集団と県立の子どもたちの集団というのは大きく異なる部分があると思っておりますので、直接この結果を公立中学校に生かすというようなところは今のところ考えておりません。

## 松山委員

個人的に公立の市町村の学校との格差、全体を上げるという目的においては、やはり格差というのはとても気になる場所なので、具体的な使用は難しいかもしれないですけど、そういった面でも活用していただけたらと思います。

## 教育長

要望ということでよろしいですか。

## 松山委員

はい。

## 松田委員

14ページの生活習慣に関する主な項目の部分で、上から4段目です。「1日当たりの自宅での勉強時間」、「1時間以上」というのが、小学校も中学校も全国に比べるとかなり上回っているような気がしますけれども、家庭の学習と実際の全国学力・学習状況調査との関連について、どうお考えかをお聞きしたいのですが。

## 義務教育課長

我々もここの数値はいつも、「家庭では学習しているんだけど結果に結びついていない。」というところは問題意識を持っているところです。調査結果を詳細に分析しているところですが、学校向けの質問というのがありまして、その項目で、すみません、口頭になりますが、「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに家庭学習の取組として学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。」というのを問うているのですけれども、つまり学習方法を具体例を挙げながら子どもたちに学習の仕方を教えたかというところ辺りで見ると、逆に全国よりも低い値が出ております。つまり、家庭学習に対して「やりなさい。」と言われて、子どもたちは真面目にやっているんだけど、具体的に学校が教えていたかというところでは、やはり若干課題があるのではないかというようなことも今データから考えておりますので、この辺りも今後、学校にまた指導する一つの材料にしていきたいというふうに考えております。

## 松田委員

そういうふうにした方が、せっかくの勉強時間が効率よく、そしてまた成果に反映されるんじゃないかなと思いますので、是非よろしくお願いします。

## 島原委員

全国の平均と比べると、0.1とかは低いような感じ、差があまりないようにも感じますけれども、この点数の結果がどうというよりは、これは結果ですので、学力を向上させるためには何をするのかということがすごく大事だと思うんですけれどもね。先ほども少し、生活習慣に関するという御質問もありましたけれども、この生活習慣に挙げられている項目と学力との強い相関の差はどこにあるのか。どの項目が一番相関性があるのかとかいう分析はされているのでしょうか。

### **義務教育課長**

一項目ということではないんですけれども、国の調査結果、国がクロスで集計している内容を見ますと、いわゆる非認知能力と呼ばれるところですね。「粘り強さがある。」とか「規則正しく生活する。」とか、そういった部分との学力の相関というのは一定程度見られるというような国の調査結果もありますので、この項目の、ピンポイントで「これ」というわけではありませんが、そういった部分との相関はあると我々も考えております。

### **島原委員**

そこに対して手を打つというか対策を取るということも非常に大事だと思うんですが、この項目に関して、例えば自己肯定感とか自己有用感とか、「今やっている勉強が将来につながる勉強なんだ。」とか。そういうことが、どう変化していくかというのは押さえるべき点じゃないかなと。結果的に学力の結果に表れますけれども、先ほど言った非認知能力ということが非常に影響があるんだよということは認識をした上で、それに対しての対策をどういうふうにするのかという、具体的なことも指針としてお示しすることが必要なと思います。それと、先ほどの松田委員の話に補足するようなことになるんですけど、以前、福井に行ったときに、福井とか秋田とかどういうふうなことをやっているのかという中で、ノートを取り方について、ものすごく細かく指導していて、それが家庭教育、勉強の中で有効だという話もありました。御紹介したいと思います。

### **高木委員**

教えていただきたいんですが、平成29年度と比較して、「新聞を読んでいる。」という数値が随分と良くなってきているように思うんですが、全国との差も。これは何か取組の成果だと思われることはありますか。

### **義務教育課長**

先ほど島原委員もおっしゃられた、項目で学力に効くということの一つに、この「新聞を読んでいるか、いないか。」というのも大きく関係しているようです。そのポイントがマイナス1.3から0.8に改善したということなんですが、これについては今、NIEという新聞を活用した授業というものを、県内複数の学校を指定して、ここ数年、新聞を授業に活用しようといったような取組を進めております。そういった部分が一つと、各学校の新聞配備率ですね。今マスコミ各社が学校に新聞を置こうという動きを進めておりますので、そういった部分で全国よりはまだ低いんですけれども、新聞配備率もこのところ県内上昇しており

ます。そういったところも一つの要因かなとは考えているところです。

## ◎ その他⑦ 宮崎県競技力向上対策本部設立及び競技力向上基本計画について

### スポーツ振興課長

(資料に沿って説明)

8年後の宮崎国体に向け、しっかり準備をしてまいりたいと考えております。説明は以上です。

### 島原委員

とても素晴らしい計画ができていると思います。非常に段階を追った強化プランがしっかりと練られているなと思います。一点だけ視点として大事なことが、スポーツ人口の裾野を広げることなんじゃないかなと思うんですよね。競技人口を増やした上で、取り組む人が増えて、その中で全体的にレベルが上がっていくという、重点的に強化をしていくというのも大事ですけども、そのためには、スポーツ環境を整えたりだとかいうことも必要なので、全県的に市町村も含めた、全県的な体制として作っていくということが必要なんじゃないかなというふうに思いました。ということで言うと、2026年に開催した後に一気に落ちるのではなくて、この競技力を維持してというような目標づくりが望ましいかなというふうに思いました。以上です。

### スポーツ振興課長

ありがとうございます。今、大変貴重な御意見をいただきました。私たちもそういう意見で、お話しさせていただきまして、先ほど説明したとおり、今回はその「基本的な考え方」に載っておりますとおり、宮崎国体が終わった後も、「継続期」というのを設定して、この8年間で持続可能な強化体制のシステムづくりを考えているところであります。そういう意味で対策本部を今度は副知事をトップに、前は教育長がトップだったんですけども、県の対策本部を広げまして、経済界の方であり商工会の会長さんでありますとか、あるいは学校の体育団体の方でありますとか、全県広げてそういう体制を作っていくということで、確認をして会議を設定させていただきまして、小学校のワールド・アスリート等ですとかスポーツ少年団とかも含め裾野も広げて、生涯スポーツもやりながら競技力向上もやるというような体制を考えているところです。

### 高木委員

今の段階でもいいんですが、教えていただきたいんですが、この小学校体育専科教員はどういう立場で、何か兼務しているのか、今いる先生にそういう役を与えるのか、中学校のように本当に専科教員なのかとかを今の段階の計画をちょっと教えていただけませんかでしょうか。

### スポーツ振興課長

今の小学校の体育の専科の先生につきましては、県内3名の先生の方がいるところであります。それぞれ学校の方に体育専科の先生がおりまして、自分の学校



の体育の授業を、自分の授業はもちろんですが、ほかの先生方の授業にT2（チーム・ティーチング）で支援をしたり、あるいは近隣の学校の体育の授業のカリキュラム、指導法、そういうところの指導助言をさせていただいている状況です。小学校の先生は全教科を一人で見ますので、そういう意味では体育専科の先生方が頑張ってもらって、運動好きな子どもをしっかりと作っていくということで頑張ってもらっている状況です。以上です。

### **松田委員**

専科の教員はもっと増やせないんですか。

### **スポーツ振興課長**

スポーツ振興課としては、今後国体に向けて増やしていくというのはございますが、県全体で専科教員の枠でありますとかそういったところが決まっているということもありつつ、そこはまた教育委員会の中で話をし、進めていきたいと考えているところです。

### **松田委員**

別件で、開催県は開催県のメリットがあって点数が取れるかもしれませんが、開催県じゃない場合に、例えば700点から900点という200点上げるためには具体的にはどういった成績を残せば良いのか教えてくださいませんか。

### **スポーツ振興課長**

まず一つは、今うちが課題としている女子競技力の向上、それから未普及競技、特に点数が全く取れていないアーチェリーですとか、成績が今、芳しくないボウリングですとか、そういう未普及競技がございますが、そこ辺りをどういうふうに今後発展させていこうかと考えているところであります。今年の九州ブロックで非常に良かったのが、ボート競技、これが実は専門の先生が2人入りまして、今年女子の方が九州で総合優勝をして、昨年から躍進したという状況があります。そういうような女子競技力、それから未普及競技、それから団体で点が取れる団体競技の育成。そういうところを小中高それから成年まで一貫して体制の充実を図っていきたいというふうに考えているところです。

### **宇田津委員**

この計画を読ませてもらって、計画的にされていて本当に素晴らしいなと思いました。すごくきちんと計画されていて、2026年宮崎国体までの目標に向かって、今までのデータとかも載せてもらって有り難いなと思って見ました。このように計画的にいくといいのかなと思うのですが、同じ目標に向かって関係機関が力を合わせて2026年を迎えて、結果が出るといいなと思う反面、やっぱり実行していくには、あとまだ8年9年ある訳で、大変なことがいっぱいあると思います。ましてや大人の8年9年というのはそうないかもしれない。子どもたちというのは、その間にいろんな心の成長もあるわけで、あまりにもこの「宮崎国体に向けて頑張れよ。」と言うのではなくて、やはり日々の競技の目標はもち

ろんあるにしてもそれを見失わずに、実践は日々の実践というのを、目の前のことを一生懸命やるということが大前提であるかな。そして、結果、良い結果が出るというのが本当に理想的なので、あまりにも指導者の方、子どもたちにプレッシャーばかりをかけていくのもどうかなと思ったものですから。でも、内容的には「こつこやれば取れるだろう。」ということが書かれてあります。本当に大変だと思います。費用もかかるしですね。設備の環境もそれから指導者の方も探さないと、いろんな手段というか手立てが書かれてあるので素晴らしいことだと思います。結果的にこのような形になればなど。県民揃って喜べたらいいなど。結果がそうなればいいな、日々の実践ありきだと思います。よろしくお願ひします。

### **松山委員**

女子選手の発掘・育成・強化の点で、喫緊の課題であると書いてあるんですけども、コメントの中で「女性特有の特徴や直面しやすい課題等を考慮に入れたトレーニングや強化練習」というところで、具体的に「女性特有の特徴」というのをどういうふうに考えられているのかというのをお聞きしたいんですけども。

### **スポーツ振興課長**

女性アスリートにつきましては、月経周期等もあるということで、そういうような身体的な周期によるトレーニングの方法、あるいはメンタル面も違いがありますので、メンタルトレーニング、いわゆる心身両方からのいろんな練習の方法でありますとか、モチベーションの持ち方でありますとか、そういうところをしっかりとやっていきたい。それから栄養学の方もしっかりと。特に鉄分でありますとかタンパク質の摂取の方法ですとか食事面のサポートをしっかりとやっていきたいというふうに考えているところです。国の方も女性アスリート支援はやっていきますので、そこの知見をしっかりと踏まえつつ、取り組んでいきたいと考えています。以上です。

### **松山委員**

とても大事な視点だと思うので、是非重点的にやっていただきたいと思います。それと成年の方なんですけど、女性の場合、出産を機に競技が継続できなかったり、環境が問題になって、託児の問題ですとか家族の協力というところは特有というところなんですけど、どうしても事実上出てきてしまうので、その点の練習時間、場所ですとか配慮というのも視点として入れていただければと思います。

### **スポーツ振興課長**

ありがとうございます。今の子どもさんがいらっしゃるママさんアスリートですが、その方々には実際、今も、大会に行ったときの託児所あるいは保育士等の旅費等を支援をさせていただいておまして、なかなか預けてという所がない状況では旦那さんや家族の方・身内の方が来られて子どもの世話をする旅費の支援ということで、そういう環境整備もやっておりますので、そこの辺りも含めて、

更に充実した支援をしていきたいというふうに考えているところです。以上です。

### **高木委員**

今の女性特有ということで一つ、宮崎県でもすごく取り組まれているLGBTの問題もあるのかなど。選手の中には自分の性で困っている、混乱している、そういう対策とかもまた考えて、本人がこちらで出たいとか、全国的にもその辺が非常に問題になっているんですけども、そこについての取組とか計画とか、お考えはありますか。

### **スポーツ振興課長**

そこ辺りは県の体育協会等とか、あとはやっぱり一番は中体連、高体連。学校体育団体のところでいろんな形で御意見をいただけるのかなと思っていますので、今は特にそこについてはまだ話をしていませんので、これからしっかりそこ辺りも検討していく形を取っていきたいと思っています。以上です。

## **◎ 次回会議の日程等について**

### **教育長**

それでは、次回定例会は、9月26日、水曜日、14時からとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

これより後、会議冒頭の決議により非公開とします。

傍聴者の方は、御退席をお願いします。

暫時休憩とします。